

復刊

ハズミ



所沢図書館だより
復刊32号(通巻110号)
題字 高橋 玄洋 氏

目 次	
P.1	平和な未来を！
P.2-5	講演録 『子どもと絵 本を楽しもう』
P.6-7	講演録 『みどりの森 と、本の森と』
P.8	図書館活用法

平和な未来を！

近藤 君子

太平洋戦争から78年目の終戦の日、若者たちは戦争や平和についてどう感じているのか、という番組が放送されました。3千人の若者を対象にしたアンケートを基に、若者の声を聞きたいという呼びかけに応じた人たちがスタジオに集まり、専門家を交えた話し合いの中で「もし戦争が起きたら?」、不安や危機感について自分の考えを語り、意見を交わしていました。番組の中でも取り上げられていたのが昨年、世界中を震撼させたロシアのウクライナ侵攻についてでした。涙を流して死の恐怖を語る子どもの姿が映像に映し出されたように、被害を受けた市民の中には女性や子どもが多く、停戦の兆しは今も見えないままです。

侵攻の長期化とともにウクライナ戦争に関する本も多く出版されています。『10代が考えるウクライナ戦争』(岩波ジュニア新書)は、5つの高校で座談会を開き、ウクライナからの避難民を受け入れている高校、オンラインでウクライナとの交流を行った高校など、ウクライナ戦争から「戦争と平和」について、一人ひ

とりが自分事として考えている姿が伝わってきます。

ウクライナ侵攻後、国際情勢や平和について、若い世代の関心が高まっています。78年前の戦争で地方都市では最大級の空襲被害を受けた富山と二つの被爆地、広島、長崎の高校の新聞部員が平和について語り継ぐ意義を深めたいと、オンラインで語り合った活動が報道されました。「悲惨な戦争を伝えることが、後世に戦争を起こさないために大切だ」と、戦時中、自分たちと同じ10代だった戦争体験者の聞き取りに取り組みました。戦争体験者が高齢化し、生の声を伝えられることが難しくなっていくなかで、どう語り継いでいくのか、高校生たちの取り組みに胸を打たれます。

勤務する中高図書館では国際情勢や平和に対して関心を深めてもらいたいと思い、『さがしています』(童心社)、『せんそうがやってきた日』(鈴木出版)、『弟の戦争』(徳間書店)、『チャンス』(小学館)など、表紙を面出しして展示しています。戦争と平和を考える本はたくさん出版され

ているので本を探すときには『明日の平和をさがす本』(岩崎書店)などが参考になります。図書館で手に取ってほしいと思います。

生命誌研究者中村桂子さんは『老いを愛づる』(中公新書ラクレ)のなかで、「孫世代に伝えるべきこと」として、「小さい子どもとして戦争が日常生活をどれだけ壊すかということに身に沁みています。(中略)太平洋戦争での私たちの体験はやはり若い人たちに語らなければいけないと、とくにこの頃強く感じます。(中略)小さな人たちの未来が幸せであるように願いながら」と述べられています。

近藤 君子 氏

読書アドバイザー／(一社)子ども本の研究会会員・『子どもの本棚』選定委員／親子読書地域文庫全国連絡会世話人・『子どもと読書』編集担当／児童図書館研究会会員／科学読物研究会・新刊研究会会員／学校図書館を考える全国連絡会世話人／学校図書館問題研究会・東京支部会員

公共図書館および地域開放型小学校図書館に司書として13年間勤務後、大学図書館で4年間勤務。

現在、ドルトン東京学園中等部高等部司書、都立特別支援学校図書館支援員として勤務中。

所沢図書館講演会「子どもと絵本を楽しむ」

講師 社会福祉法人芳雄会図書顧問・司書 伊藤 明美氏

令和五年三月十一日（土）会場 所沢図書館 本館

私はずっと、子どもたちの周りに良い本がある状態にしたいと思っていました。幼稚園や保育園は園によつて本の量や質が違います。そこで、小学校に入る前に絵本に親しんで欲しいと思い、保育園の先生たちと絵本の勉強会を続けていたところ、司書のいる保育園を作りたいと声がかかりました。

このスライドは保育園の4歳児に読み聞かせをしているところです。この子たちが1歳の時から読み聞かせをしています、みな落ち着いて良い子に成長しました。

家庭における絵本について、東京大学の佐藤先生が一昨年に年少から年長児の保護者を対象に調査を行いました。すると、1日の読書時間が10分以下の子が半分以上でした。子どもの本は汚れたりするし、何回も読みたがるので買うことがあると思いますが、10冊以下の家が2割。テレビやスマホを見ている時間は平日で2時間以上で、土日はさらに増えます。

本は心の栄養だと思います。体の栄養になる物を吟味するように、本も、ちゃんと選ばなければいけないのですが、大人は本を薬として考えがちです。兄弟ゲンカをしなくなるような本など、そういう本を子どもはすぐに見抜いて、本が嫌いになってしまいます。メッセージは隠れていて、色々読んでいく内に自然に子どもの中に入ってきます。それが栄養です。

良い本って面白い。面白いという体験をすると、色々な本に自分から進んで出会うようになります。

では、「面白い本ってどんな本か。子どもたちによく「面白い本ない？」と聞かれるので、どういう本が面白い本と思うのか聞いてみました。すると、「ゲラゲラ笑っちゃうようなのじゃなく、読んでいることを忘れちゃうような本」と言われたんです。「面白い本」というと、つい笑っちゃうような本と考えると、ついでに笑っちゃうような本と考えると、子どもに教えられました。

子どもに本を読む時、大人は、すぐに面白かったと言われたがりますが、しばらくしてから言ってくる子もいます。この前読んでもらった本、面白かったって。この前って半年前とかだったりしますが、その間中、心に残り続けたことが大事なのです。だから、すぐに面白いと返ってくるものばかりを選ばない方が良いと思います。



赤ちゃんは、4ヶ月位で一つの物をじっと見ることが出来るようになります、その辺りが絵本を読んでもあげる始まりと言われています。まだ何か言っているこないかもしれないけれど、じっと見ていたら、それについてお話できます。大人が応えてあげることが大事です。読み聞かせは親子の関係を育てます。赤ちゃん時代の読み聞かせ

はそのためと言っても良いです。下手でも良いから読むことが大事です。親が読んであげる時には、その子への愛情が入っていますし、お話が伝わると思っています。親も子どもが絵本のどこを見ているのか分かるので大事です。

赤ちゃんの絵本には大きく分けて物の名前を教える認識絵本と物語の絵本、言葉やリズムの絵本があります。

この『くだもの』は、これはスイカと教えると同時に食べ方を教えています。そして美味しそうに描かれています。食べ物の本は美味しそうに描かれているのがいいですね。

また「さあ、どうぞ」「ありがとう。」という「やりもらい遊び」は、子どもの発達のすごく大事な一つの段階です。0歳から読めて2歳位まで繰り返し読む本です。

『どうぶつのおかあさん』も子どもたちが大好きな本です。動物の絵は、生きている感じが伝わってくる本が良いです。シリーズで『どうぶつのかどもたち』がありますが、子どもは『どうぶつのおかあさん』が一番好きです。これが0歳からとすると『どうぶつのか

こどもたち』は、2歳半位から楽しめます。

『おつきさまこんばんは』は浦安市立図書館のベストリーダー。返却された本を確認すると、よく破れたりするページがありました。お月さまが雲に隠れる場面です。

子どもたちはこの後ろにお月さまがいることが分かっています。ここを破ったりするわけです。後ろにすることが分かっている。つまり、いないないばあができる。その位の年齢が1歳前後なので、その時期によく読まれます。

『ごぶごぶごぼごぼ』はお母さんたちには、意味が分からないと言われますが、子どもたちは好きです。音の面白さと抽象的な絵が子どもたちを違う世界へ連れていく感じがします。

0・1・2歳の辺りは音とか言葉を自分の中に溜め込んでいる時期。色々な音を聞いてすぐ覚えられます。わらべうたの本とか面白い音の本が、よく読まれます。

絵本は子どもが最初に出会う芸術です。美の基準のようなものが子どもの中にできる。その時に『くだもの』等の良い絵本で果物とか動物に出会って欲しいと思います。

言葉もそうです。まだ字が読めない時に、自分で絵本を開いて、ちゃんと文章で言ったりしています。全部覚えてしまうので、その時にちゃんとした日本語を伝えておきたいです。

0・1・2歳の絵本の読み方は共感読書だと思っています。子どもがじつと見ていたりしたら絵を媒介にしてお喋りする。反応してもらうと子どもも嬉しい。それで、本が好きになっていきます。また、絵本を読んでいると本を閉じたがるとか色々な段階がありますが、そういう段階なのだと思います。繰り返すうちに段々聞けるようになります。子どもに共感しながら読んであげることです。



では幼児や小学生には何故読み聞かせをするのか。「小学校に入ると、字を習うから必要ない。」「読んであげると自分で読まなくなるのでは。」「と言う人がいますが、そんなことはないです。字を読むことと本を読むことは違います。大

人が読んでくれれば、子どもは字を読む負担無くお話の中に入っていけます。

子どもが嫌がるまで読むと、自分で読むようになります。何歳までか聞かれて、小学校高学年位までと答えるのがっかりされますが、そこまでやるとすごい読書家になります。読んでもらうことが、お母さんと一緒にいられる時間を持つことでもあります。

絵本は、絵がすごく大事です。文章以上に絵が語っていることもあります。

絵本を選ぶコツは、絵だけ見てお話が想像できるかということですよ。『あさえとちいさいいもうと』は絵だけ見て大体お話は想像できたかと思いますが、ちよつと見ていきます。

あさえが外で遊んでいると留守番することになります。妹が出てきて、外で遊んであげますが気が付くと妹がいなくなってしまう。あさえは焦って走っていきます。

この絵で見てほしいのはあさえの重心です。重心が上がって地面に足がつかない状態です。交差点で止まって足が完全には地面についていない。公園には、体が傾いて

いる感じで走っていくと、妹がいきました。林明子さんはあまり正面から子どもの顔を描かないのですが、それでも気持ちが伝わるように感じます。この後ろ姿は、妹が見つかったので、肩から力が抜けて、ほつとしているのが感じられます。子どもたちにこの本を読むと「お母さん来た。」って言うんです。小さいから大人は見落としませんが、子どもはよく見ているなと思います。

でも、なんでこの表紙になったのか謎でした。これは妹に靴を履かせているので、妹が外に出てくる時の絵です。この絵本の前に描いた『はじめてのおつかい』は、初めて1人でお使いに行くという冒険の話です。すると『あさえとちいさいいもうと』は、あさえの冒険の話という気がします。では、冒険のきっかけは何かということ、靴を履かせてしまったこと、きつかけとなる大事な絵なので表紙になったという気がします。

表紙は内容を少しアピールする場面です。次に描かれた『いもうとのにゆういん』では、あさえが妹に触れないように、お人形を担ぎあげています。このお人形が

大事な役目を果たすに違いないと思うわけです。

この絵本では主人公の位置も注目してほしいです。主人公は大概絵の中心に描かれています。この絵では大体中心に描かれています。が、次の絵は座り込んでいて結構空間が開いています。妹が入院することになる。この絵では端の方に描かれていて、何もない空間がすごく広い。あさえの不安な気持ちの表れかと思っています。

次の日に病院で、あさえは妹に大事にしていたお人形をお見舞いあげることにします。裏表紙で、妹がお人形と一緒に病院のベッドで寝ているところに折り鶴が2つ下がついていますが、これ誰が折ったのって子どもたちが聞くんです。紫のはあさえが折った鶴ですが、白地に赤の模様の紙の鶴を折ったのは誰か。この紙はお人形を包んでいた紙なので、お母さんがあさえの気持ち嬉しくて、包み紙を折鶴にしたと想像できます。子どもはそういうところを見えています。きつとお母さんが折ってくれたんだと思うわけです。

子どもが絵本の中に何を求めているかを分かって描いている良い

絵本だと思っています。文章には書いてないのですが、絵を見れば分かるようになってるのが、絵が語るといことです。



もちろんストーリーも大事です。子どもにとつて満足のいく結末であること、行って帰ってくることで大事です。あと共感できる主人公がいるかどうか。『いたずらきかんしやちゅうちゅう』は、子どもがちよつと大きくなって一人で冒険してみたいという気持ちが伝わってきます。それから『ラチとらいおん』は大学の授業で読むと、何人か泣いちゃうんです。共感できるので。

それから、子どもは大人が何をしているかをよく見ています。『せきたんやのくまさん』は、3歳前後のベストリーダーです。これはシリーズもあります。それから『ちいさいヨット』は、手を抜いていない。大人がやるべきことをちゃんとやっている。真面目に前向きに生きているのがストーリーになっているのが子どもは好

きです。

安心できる日常に帰ってくるということも大事です。『あくたれラルフ』は、悪たれ猫のラルフが色々ないたずらをしてサーカスに置き去りにされますが、飼い主のセーラが探しに来てくれる。悪たれでもあなたがとても好きなのよと言ってくれて、家に帰ります。

子どもたちは興味が広がっていくと、この世のものでないお話とかも好きになります。例えば『かいじゅうたちのいるところ』。この前、聞いていた子が「これ、お父さんだよ。だってこれだけ人間の足だもん。」というんです。寂しくなった時一番近くにいて、表紙でも1人ここで眠っている、だからお父さんだと言うんですね。そこまで考えたことなかったのですが、よく見ていると思います。4、5歳はとも好きです。

言葉の表現も簡潔に美しく具体的に書いてあることが大事です。『だるまちゃんとてんぐちゃん』は、子どもたちはすごく好きです。他の職員が読んでいるのを聞いていたら、すごく分かりやすい、とても良い日本語なんです。きちんと文章が頭の中に入ってくる。こ

ういう本は、小さいうちに聞かせたい。

それから昔話や知識の本とか色々あります。子どもの興味が広がるので、色々なものに出会わせてあげたら良いと思います。

例えば『ガラスめだまときんのつものやぎ』というペラルーシ民話。これは、お婆さんの麦畑に山羊がやってきて出ていかない。誰も山羊に敵わないでいると蜂が来て、山羊をチクリ。山羊は逃げ出して、お婆さんは末永く幸せに暮らしたというお話。聞いていた男の子が「お婆さんの家はどこにあるの」と言うんです。もう文章ないんだけど思ったんですが、次のページがあったんです。子どもにしてみれば、お婆さんは幸せに暮らしましたがどんな風に暮らしているんだろうと思うわけですね。そこに応えるように絵があつたことがすごいです。

それから『うまかたやまんば』というお話を語ったら「山姥って何？」と聞かれたんです。山姥には、良いのも悪いのもありますので、言い淀んでいたら、その子の隣にいた子が「前に読んでもらった食わず女房だよ。」と言ったんです。『くわすにようぼう』は鬼婆と言っ

ていますが、まさに悪い山姥なんです。良い絵本はこういう風に理解を助けるんだなと思いました。

昔話は、残酷だと話を変えてしまっているものもありますが、子どもの中でちゃんと消化できるものなので結末を変えていない本を読んで欲しいです。

知識の本や科学の本も面白いものは沢山あります。

『ない!』は、有ること無いことがはっきり分かって「ない」と言う時と「いない」と言う時があると気づかせてくれるのが面白いです。

それから『コップ』は、いつも聞いてない子が裏表紙で「コップは花を捕まえる」と言ったんです。よく聞いていたなと思ったら、これ谷川俊太郎の文章なんです。文章もすごい本だと気づかされました。

あと『イワシ むれでいきるかな』イワシは群れで生きることができ延びていくということが書いてある本です。これは小学校の高学年まで楽しめます。

それから『このあいだになにがあった?』2枚の写真の間に何かがあった、ということを想像する

のが面白いです。

ぜひ見て欲しいのが『いきものづくしものづくし』で、外はシンブルですが、中の絵がすごい。絵が良いので、開いて保育園に置いておくと子どもとお母さんが見て色々話をしていきます。デザイン性もあるし、内容も良い本です。

あと、ナンセンスな絵本。子どもは真面目だからこそナンセンスも理解できます。

子どもの目を信じる。耳を信じる。子どもたちはよく見ているし、よく聞いていますので、それに応えられる本を選んで、物語だけでなく色々なジャンルに挑戦してほしいです。例えば車の図鑑しか興味が無いと諦めないで、車が出てくる本は無いか考えると幅の広い読書に繋がります。3歳以上の本は発展読書と呼んでいます。色々なものに発展していく。



一緒に楽しみながら大人が読むのが大事です。家庭での読み方にルールはありません。ふざけても良いです。つかえても下手でも良いです。それから何か見た時に、本も一緒に紹介すると、知りたいことがあったら本を見れば良いと自然に分かるようになるので、体験と本を結びつけてあげて欲しいと思います。絵本の読み聞かせはリアルな体験です。聴覚と感情が脳の中で近くにあるので、耳から聞いたことが、感情を動かします。

『ぐりとぐら』を読んでもらったことを思い出して、赤ちゃんに読んであげようと言ったお母さんがいます。幼児の時の記憶がずつと残っていたということでした。それはその人にとっての宝物です。皆さんの読んだ本が子どもの宝物になり、子どもの一生を支えます。

最後に『サルビルサ』がすごく好きで、いつもこれを読んでくれるという子がいたんです。図書館にもあるよと言ったら、初めてお母さんと一緒に図書館に行ったそうです。それで、お母さんが読んだら最初は、違うって言っていたのに、後日、もう僕、先生に読んでもらわなくていいよ、お母さんに

読んでもらうからって。やはりお母さんに読んで欲しいんです。お母さんもそれがきっかけで図書館を利用するようになったそうです。下の子にもよく本を読んであげるようになったようで、何がきっかけになるか分からないですね。

万人に好まれる本というのは無いですが、子どもが興味を持った時に、本を紹介したり読んであげたりできると、子どもがどんどん本を好きになると思います。

伊藤 明美氏

東京生まれ。立教大学大学院修了。日本図書館協会認定司書。一九八二年より三十三年間、千葉県浦安市立中央図書館に司書として勤務。朝日新聞「子どもの本棚」書評委員、NPOブックスタート第一回絵本選定委員、東京書籍中学国語教科書編集委員を歴任。現在も小学校・保育園・学童保育クラブなどで読み聞かせ・ストーリーテリングを続ける。

現在、社会福祉法人芳雄会図書館顧問・司書、千葉大学・日本女子大学・白百合女子大学・清泉女子大学・山梨英和大学非常勤講師、小澤昔ばなし大学語り講師、国立青少年教育振興機構絵本専門士養成講座講師。筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程在学中。

「みどりの森と、本の森と」

講師 おおたかの森トラスト代表 足立圭子氏

所沢市環境クリーン部みどり自然課

・ 所沢図書館富岡分館 共催

令和五年七月二十九日（土）

所沢図書館富岡分館・おおたかの森トラスト緑地



（武蔵野台地）武蔵野台地は見渡

す限りススキの原でした。今から350年前、新田開発がはじまりました。有名な「三富の開拓」です。

人々は、ここにコナラやクヌギ、アカマツを植えました。

（萌芽更新）植えたコナラやクヌ

ギが大きく育ったら、冬に伐ります。春になると切り株から芽が出ます。伐って日当たりが良くなると芽が出るので、学校の校庭の4分の1の二千㎡くらいをいつぺんに伐ります。そうしましたらここには、虫がやってきます。虫もいろいろ種類がいて木が若くないとやってこないのがあるのですよ。昔は伐った木が燃料で、お風呂やご飯炊き全てで使っていました。持っている森を全部伐ってしまったらなくなってしまうので、少しずつ分けて伐って、若返らせていくということをやっていました。

（ホダ木でキノコの栽培）今はその木を持ってきてキノコの駒を打

ちます。キノコも木によって種類が違います。ヒラタケ、シイタケ、ナメコそれぞれ好きな木があります。木によってキノコが違うので、それを私たちは活用しています。

5年経つとホダ木がボロボロになるので、それをみんなで集めます。そうすると翌年カブトムシ、木によつてはクワガタが来ます。昨日も夕方見に行ったら樹液が出ていました。カブトムシが来ていました。みんなが気をつけなければいけないのはスズメバチです。アシナガバチとは持っている毒素が違います。スズメバチがいたら追つてはダメですよ。体を小さくして友だちに教えてあげてください。間違つて刺されたら救急車を呼ばなければならぬ人が10人に1人ぐらいいます。

（アカマツを植える）ここで一番重要なのはアカマツです。なぜならアカマツは枯れて少なくなつてしまつていたからです。アカマツ

には絶滅危惧種ハルゼミなどの生き物がやってくるので、アカマツの種から芽が出たものを育てています。かつて平地林に枯れたアカマツがゴロゴロころがっていました。これは、他の使い道がないので、炭を焼いてあげると木の中が隙間だらけになって地球にいいことが起きます。木酢液を集めると水虫の薬にもなりますし、野菜の農薬が減る、土壌の改良ができる優れものです。毎年、子どもたちと木炭を川に入れる活動をしています。この活動で子どもたちは、隙間だらけの木炭には微生物がたくさんすむので、川に入れてあげると生きものが戻ってきて、水きれいにする働きがあることを知ります。

（生態系ピラミッド）所沢の川の一番メインはウナギです。ウナギは川を昇り降りして川と海の生態系が繋がります。ウナギはこの川の魚の中では生態系のトップにいるので、これを戻してあげないと川の生きものが安定しないのです。所沢の川にも数十年前まではうなぎが生息していました。ですから、私たちはウナギがどうやって棲めるかをいつも考えながら活動して

います。宮前小学校、西富小学校、清進小学校の子どもたちも来て活動しました。生きものは繋がっているということが炭からも分かったと思いますが、木があれば木にやってくる生き物がそれぞれ違います。それが生態系ピラミッドになります。これは立方体です。下の面積によって上に乗ってくるものの安定度が違います。この一番上にくるのがオオタカではなくて人間です。

（くぬぎ山）おおたかの森と呼ばれる所沢・狭山・川越・入間・三芳・ふじみ野の一九〇〇年の地図をみるとたくさん木がありそうです。これだけたくさん木がないと、ここには人が生きていけなかったそうです。一九八八年の地図を見ると多くの緑が減りました。ここです。一九八八年の地図をみると、ここには人が生きていけなかったかと思ふのが「おおたかの森トラスト」です。その中で特に有名なのがくぬぎ山です。ここは県内で一番大きな平地林です。この時代にダイオキシン問題が出ました。一九九九年になるとさらに緑が減りました。二〇一六年の地図でみどりのところが所沢市が買った土地です。

（特別緑地保全地区指定）

所沢は二〇一九年に国と県と所沢主体で特別緑地保全地区という指定を行いました。これは他の市町村では行っていない制度です。他の市町村では市民が動かないのと緑地保全の大切さがわからないのかもしれないのですが、所沢は市長さんはじめ市の職員の方々の力でここまで来ました。でも、市に売るのは嫌だという地主さんがいらっしゃるのです。なぜかという、道路沿いだったら開発できるので所沢が買うより倍の値段で売れるじゃないですか。でも先ほど言いましたが、平地林をかうとただで生き物がついてくる。市が頑張っているのですから、国がやりましようよ。テレビで所沢は借金してでも土地を買っていると言っていましたよね。

平地林は5階建てです。大きな木、中くらいの木、低い木、草、そして土です。ちなみにこの時1cmの土ができるのに百年かかります。その代わり大雨が降っても全部吸い込んで流れ出ることはないです。こうやってあちこちでアカマツが増えてくれば、生態系ピラミッドの一番元になるオオタカやツミが戻ってきてくれて中の自然が安定します。日本では、哺乳類の3種に1種(33%)、鳥の5種に1種(20%)、動物の4種に1種(25%)が絶滅しています。生態系の上の部分を守るのは地域しかないのです。

（ビオトープ）学校のプールにどれくらいヤゴがいると思いますか？ 五千です。もし、その内千匹でも救出して、そのあとはどうしたらいいと思いますか？ 宮前小・清進小は、救出しています。西富小も学校ビオトープを作りました。救出したらビオトープに放せばいいわけでしょう。そうすると子どもたちはトンボを育て、助け、生まれるところまで見られるので、学校ビオトープはとても大切です。

（みどりのパートナー制度）

14年前に産廃跡地の資材置き場が売りに出たので、地主さんと交渉して地域の人たちと2週間で二四〇〇万円集めて買いました。みどりのパートナー制度は、ふるさと所沢のみどりを育てるための活動です。この「みどりのパートナー」に「おおたかの森トラスト」が加盟しています。そして、今10ha程の平地林の手入れをしています。「こどもエコクラブ」（「おおたかの森」を守る活動をしている子どもたちのグループ）が「みどりのパートナー」に入ります。所沢でこどもの団体の登録は初めてでした。所沢は生物多様性というすごいことにチャレンジしています。

（生物多様性ところざわ戦略）

『生物多様性ところざわ戦略』（所沢市環境クリーン部みどり自然課二〇二一年）。これは今ある自然を残すだけではなくて、もっと豊かにしていくための活動です。子どもエコクラブは現在131名です。大人が補佐をしていかなないとできませんので、たくさんリーダーが必要になります。

所沢の歴史を考えるとススキの原では湿気がないから、虫は生き

ていけなかったのです。木を植えたおかげで水気ができて、腐敗を進めました。やっと生きものが棲むようになったので、今あるものを残して、みんなで工夫して豊かに増やしていくてあげましょう。（参加者…大拍手）



足立圭子（あだちけいこ）氏

一九四四年生まれ 東京都北区出身。七二年所沢へ移住。母親仲間や子どもたちと地域の自然を守るボランティア活動に取り組んだ。九四年には多くの生きものが生息する埼玉西部・武蔵野の平地林を買取り保全する団体「おおたかの森トラスト」を設立。二〇二二年秋に緑綬褒章を受章した。

◆図書館活用法◆

皆さんは、図書館で調べものをしたことがありますか？図書館で実際に問い合わせを受けた事例から、内容をご紹介します。

ゼラチンの原料と、固まる条件について知りたい。児童書が良い。▽

ゼラチンの原料は、動物の皮や骨等を水と一緒に煮つめて取り出したコラーゲンです。同じようにゼリー等を使用するもので寒天があります。寒天は海藻を原料にしているという違いがあります。

ゼラチンを温水に溶かすと粘り気のある液体になり、それを15℃20℃以下の環境で冷やすとゼリー状に固まります。常温では固まらず、冷蔵庫で冷やす必要があります。また、沸騰させてしまうと、固まる力が弱くなるので、溶けたらすぐに火からおろす等、注意が必要です。

(参考資料)
『総合百科事典ポプラディア』9

ポプラ社 2021年

『小学生のキッチンでびっくり実験66』学研 2009年

『身のまわりのふしぎサイエンス2』内田麻理香／監修 岩崎書店 2012年

『小学生のキッチンでかんたん実験60』学研 2007年

『お菓子な自由研究』東京製菓学校／監修 学研プラス 2020年

『寒天とゼリーで作るお菓子』永島利明／著 民衆社 1989年

『ぶきつちよさんの冷たいお菓子』森山サチ子／著 雄鶏社 1989年

『虎目石(タイガーアイ)について調べたい。▽

虎目石は、角閃石の一種のクロシドライトに石英が浸み込んで硬くなったものを、研磨してアクセサリに利用しているものの名称です。角閃石にはナトリウム、マグネシウム、カルシウムを主成分とするものや、その中間型があり

ます。

クロシドライトは、ナトリウムが主成分で、他に鉄とマグネシウムを含んだ角閃石で、特に藍青灰色で細くてしなやかな繊維状の結晶になっているものです。

クロシドライト本来の色のものは鷹目石と言い、酸化作用で茶色になったものが虎目石です。

(参考資料)

『天然石のエンサイクロペディア』飯田孝一／著 亥辰舎 2011年

『楽しい鉱物図鑑』堀秀道／著 草思社 2019年

『原色新鉱物岩石検索図鑑』柴田秀賢／旧版著 北隆館 2003年

『ジュエリストン百科全書』八川シズエ／著 中央アート出版社 2004年

所沢図書館では、調査方法の情報源として、調べ方案内『さんときく知っ得！読ん得？調べ得！』を作成しています。

館内にて配布、所沢図書館ホームページからもダウンロードできますので、ぜひご利用ください。

編集発行：所沢市立所沢図書館 〒359-0042 所沢市並木 1-13

ホームページアドレス パソコン <https://www.tokorozawa-library.jp/>

スマートフォン <https://www.tokorozawa-library.jp/opw/OPS/OPSINDEX.CSP>

電話 / FAX

本館 04-2995-6311 / 04-2992-1421

所沢分館 04-2923-1243 / 04-2928-8195

椿峰分館 04-2924-8041 / 04-2928-8148

狭山ヶ丘分館 04-2949-1193 / 04-2949-8577

松井小学校図書館 04-2992-2796 / 04-2992-2797

富岡分館 04-2943-3636 / 04-2943-6680

吾妻分館 04-2924-0249 / 04-2928-8250

柳瀬分館 04-2944-4023 / 04-2945-7236

新所沢分館 04-2929-1905 / 04-2929-1906

2023年12月25日発行 復刊いずみ32号 (通巻110号)